

IV-19 明石海峡大橋の開通が地域住民の行動に及ぼす影響に関する事前事後調査の比較分析

徳島大学大学院 学生員 ○山田 茂之
徳島大学工学部 正会員 廣瀬 義伸

徳島大学大学院 正会員 近藤 光男
徳島県 正会員 岸本 紘典

1. はじめに

平成 10 年春に開通した明石海峡大橋は、徳島県の社会、経済に大きな影響を及ぼしており、そのインパクトを県勢発展に最大限に生かすべく、今後も様々な取り組みを進めていく必要がある。

本研究では、明石海峡大橋の開通が地域住民の行動に及ぼす影響に関して、平成 9 年 7 月に実施した事前調査と平成 12 年 10 月に実施した事後調査の比較分析を行い、明石海峡大橋開通前の利用意向と開通後の利用意向の違い等について考察する。

2. 本研究の内容

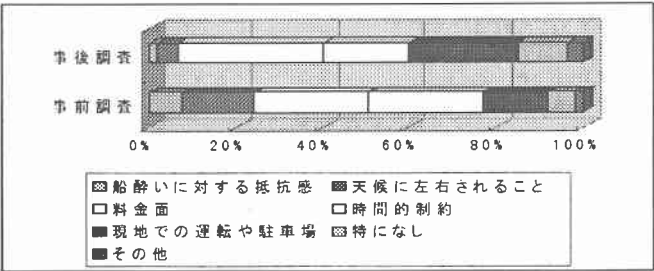
本研究で行った調査の内容は、回答者の属性、四国・近畿間移動の制約条件と促進条件、年間平均旅行回数・宿泊回数、旅行目的、利用交通手段、消費地域となっている。

3. 事前事後調査の比較分析

3-1 四国・近畿間移動の制約条件

四国・近畿間移動の制約条件の比較分析結果を図一 1 に示す。

事前調査でみられていた船酔いに対する抵抗感と天候に左右されることという項目が事後調査では大幅に減少している。また、時間的制約についても減少しているのは、自家用車や高速バスで自分の好きな時に、しかも短時間で移動できるようになったためと思われる。しかし、その反面、料金面と現地での運転や駐車場といった自動車で行動することによるデメリットも増加し大きな制約となっていることがわかる。

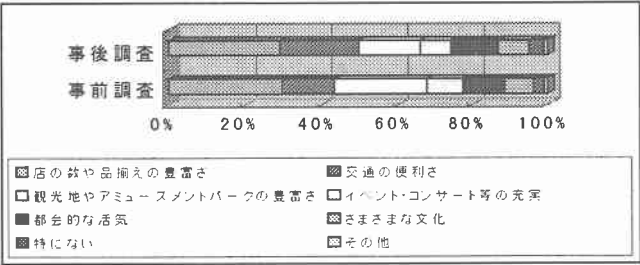


図一 1 四国・近畿間移動の制約条件

3-2 四国・近畿間移動の促進条件（魅力）

四国・近畿間移動の促進条件の比較分析結果を図一 2 に示す。

事前調査と事後調査ではほとんど変化はないが、交通の便利さが事前調査での予想以上に高い値を示している。これは、自動車だけでなく、高速バスの存在が大きな要因となっていると思われる。明石海峡大橋開通後、予想以上に高速バスの本数が確保され、手軽な移動が可能になったことがメリットとなったと考えられる。

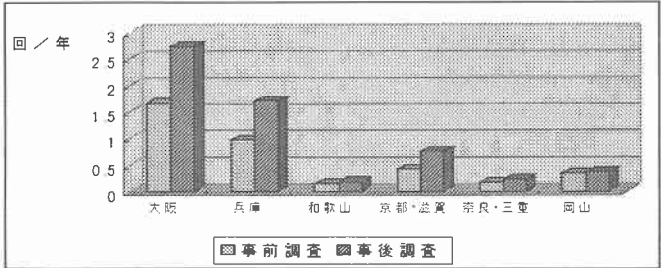


図一 2 四国・近畿間移動の促進条件（魅力）

3-3 年間平均旅行回数の比較分析

年間平均旅行回数の比較分析結果を図一 3 に示す。

全体的には事前調査の値を事後調査の値が上回っている。この結果より、明石海峡大橋の開通効果は、住民が予想していた以上に大きかったものと思われる。特に、大阪、兵庫、京都、滋賀といった京阪神への旅行回数の増加が大きな値を示している。



図一 3 年間平均旅行回数

3-4 年間平均宿泊回数の比較分析

年間平均宿泊回数の比較分析結果を図-4に示す。
全体的に事後調査の値が事前調査の値を上回っている。やはり、京阪神を中心とする近畿地方への旅行においては日帰りでは十分な時間が取れないので、泊りがけの旅行が多くなるためであると思われる。

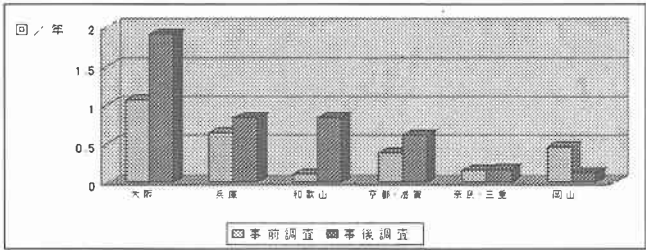


図-4 年間平均宿泊回数

3-5 旅行目的の比較分析 (大阪府)

旅行目的の比較分析結果を図-5に示す。
観光・レジャー、ショッピングが減少し、その他が2倍以上に増えている。これは、その他の中に仕事が含まれており、明石海峡大橋開通により、仕事で大阪に行く機会が増えたからであると思われる。

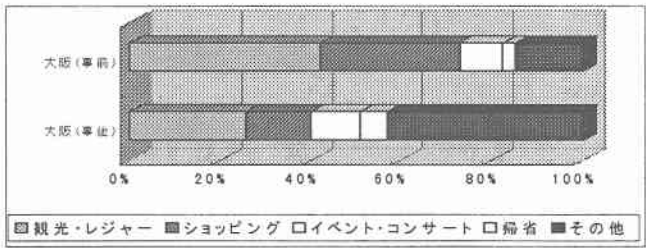


図-5 旅行目的 (大阪府)

3-6 利用交通手段の比較分析 (大阪府)

利用交通手段の比較結果を図-6に示す。
高速船、フェリーなどの海上交通が減少している。反対に、高速バスの利用率が増大し、全体の約60%を占めている。これは、明石海峡大橋の開通により、海上交通機関のルート・本数が大幅に減少した一方、高速バスの本数が増加し、どの交通手段よりも手軽になったためであると考えられる。

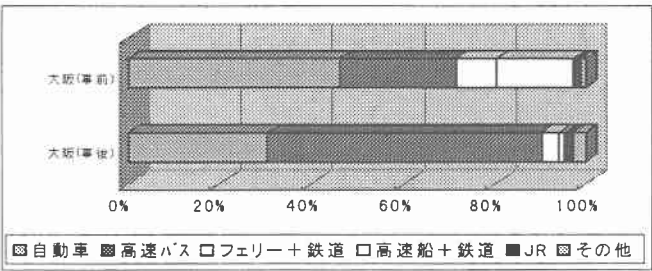


図-6 利用交通手段 (大阪府)

3-7 消費行動および消費地域の比較分析

消費行動および消費地域の比較分析結果を図-7に示す。

全体的にみても、徳島市内の消費の減少が目につく。これは、明石海峡大橋の開通により近畿地域への消費の移り変わりがあったことを示している。この結果には交通の便利さが短時間での移動を可能にしたため、より品揃えの多い店や、安い店に買い物に行く機会が増えたこと、また、旅行に気軽に行く機会が増えたこと等が大きな影響を与えていると思われる。

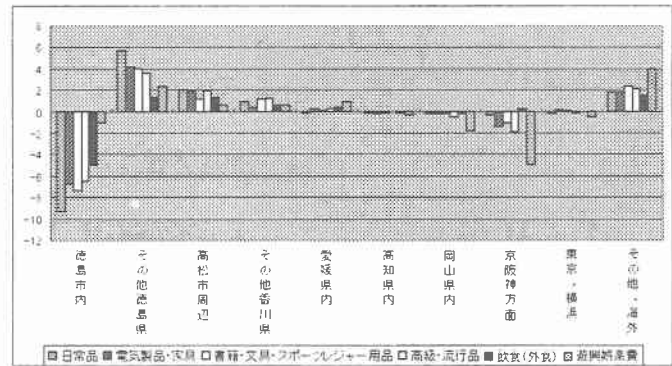


図-7 消費行動および消費地域

4. まとめ

本研究では、地域住民の行動に関して明石海峡大橋開通前の意向と開通後の実態との違いについて分析を行った。その結果、旅行回数、宿泊回数、旅行目的、利用交通手段で、開通前後の調査で違いがみられた。